

道徳通信

大田区立馬込第三小学校
道 徳 部
令和6年3月21日(木)
第 7 号

道徳性が育まれるまで

一般的に、よりよい行動を「道徳的である」と表します。国語辞典※¹には、「道徳」を「社会生活の秩序をも保つために、一人ひとりが守るべき、行為の基準」と示されていました。(※¹新明解 国語辞典第四版)

「一人ひとりが守るべき、行為の基準」はどのように培われて、どのような段階を踏まえて道徳的な行為に至るのでしょうか。必ずしも決まっているわけではありませんが、以下のような段階を考えました。

- ① 誰かに指示をされて行動する
- ② 誰かの模倣した行動をする
- ③ 行動が習慣となる
- ④ 行動のよさや大切さを考えられる。
- ⑤ 自分で判断をして行動できるようになる
- ⑥ その人の性格や態度となり、自然な状態での行動となる



誰かに指示をされて行動する」とは、「～しましょう」または、「～してはいけません」と言われて、行動ができる段階です。「しっかりと挨拶をしましょう」「食事の前には、手を洗いましょう」「人を傷つける言葉は言いません」など、誰かに指示をされて行動をします。自分の意志によるものでなく、他者からの働きかけによって行動します。

「誰かの模倣した行動をする」とは、「〇〇さんと同じようにしてみたい」という思いが行動に表れる段階です。「バスの中で、お母さんがほかの人に席を譲ったのを見て、自分も同じように行動した」「元気に挨拶をしている人を見て、自分も大きな声で挨拶をした」など、他者の模倣が行動の原動力です。この段階も他者の影響が大きいです。

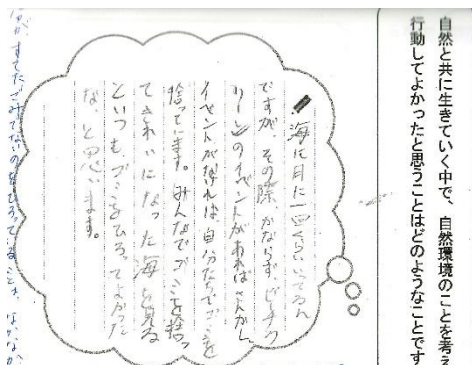
「行動が習慣となる」とは、「挨拶ができる」「宿題を終わらせてから遊びに出かける」など、誰かに影響されるわけではなく、行動が習慣となる段階です。他律的な考えからでなく、自律的な考えによって行動します。

「行動のよさや大切さを考えられる」とは、「挨拶をすると互いにいい気持ちになった」「相手に優しくすると、自分も嬉しい気持ちになる」など、その行動のよさや大切さを考えられる段階です。心地よさ、すっきりした気持ち、安心感や達成感など、行動の本質を考えられる段階でしょう。

「自分で判断をして行動できるようになる」とは、状況を考慮し、自分がすべきことを判断して行動できるようになる段階です。自分を取り巻く状況を客観的に見つめて、正しく判断する力が必要でしょう。

「その人の性格や態度となり、自然な状態での行動となる」とは、優しい、負けず嫌い、真面目などの性格や態度となり、その人らしさに表れます。人格や個性として表れるでしょう。

学校や家庭では①～③をくり返して取り組み、他律的な行動から自律的な行動へと導くことが必要です。そして、道徳科の学習の中で、特に④～⑥についてじっくりと考え、行動のよさや大切さなど、実感を伴った理解をすることが必要なのだと思います。子供たちの道徳性を育むには、家庭と学校とで協力することが必要です。



6年生の児童が道徳科で書いたワークシートです。「月に1回くらい海に行きます。必ずビーチクリーンのイベントに参加します。イベントがなければ自分たちでごみを拾います。きれいになった海を見ると、ごみを拾ってよかったと思います」ということが書かれています。詳しく聞くと、サーフィンが趣味の御家族の影響から活動しているそうです。家庭の力を感しました。

6年生の授業の様子

道徳科の教科書には、様々な教材が掲載されています。現実とは違った世界の話を紹介します。保護者の皆様もぜひ、考えてみてください。

内容項目：善悪の判断、自律、自由と責任

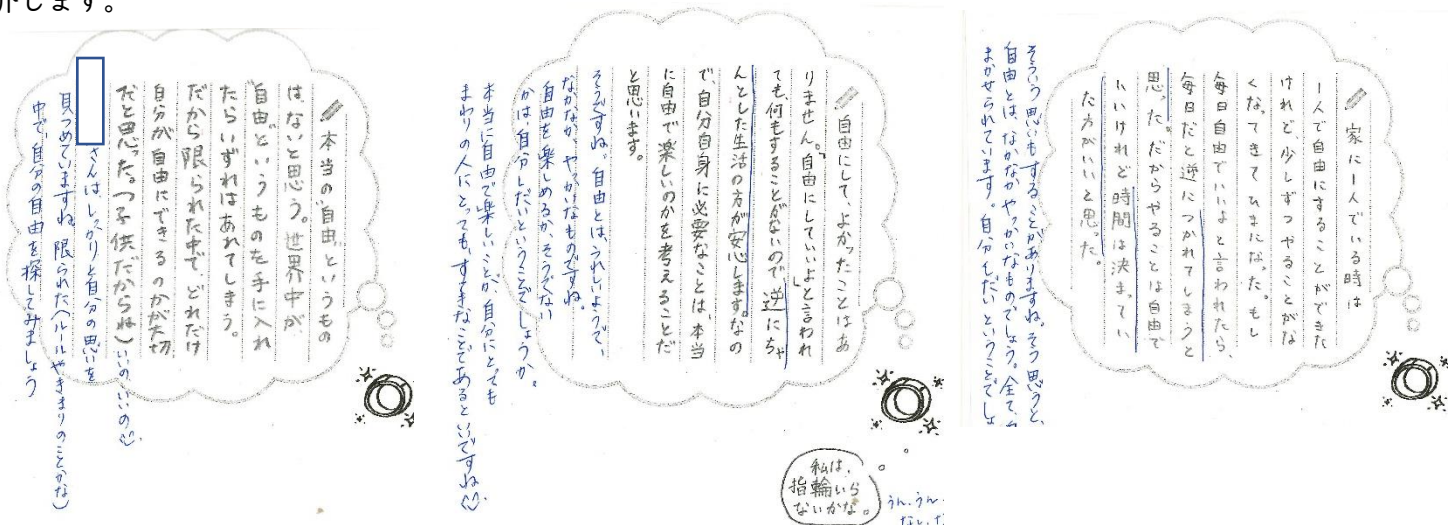
教材名 : 羊飼いの指輪

あらすじ

ある村の話です。昔、羊飼いの若者が黄金の指輪を拾いました。その指輪は、はめた人間の姿が他人には見えなくなる不思議な力をもっていたそうです。羊飼いは指輪をはめて城に向かいました。羊飼いは、城に行って何をしたのでしょうか。また、羊飼いが持っている指輪の力を他の人が知ったときに、人々は何を考えるのでしょうか。また、世界中の人がこの指輪をもっていたら、どのようなことが起こるのでしょうか。そのような世界で、自分一人が指輪をなくしてしまったら、その人はどう思うのでしょうか。



不思議な力をもつ指輪の話です。指輪をはめて、自分の姿が見えなくなった羊飼いは、城に行って何をしたのでしょうか。羊飼いのことを知った人々は、何を考えるのでしょうか。世界中の人がこの指輪をもっていたら、どのようなことが起こるのでしょうか。この教材には、様々なことが問いかけています。子供たちの考えを紹介します。



- ・本当の自由というものは、ないと思う。世界中が自由というものを手に入れたら、いずれはあれてしまう。だから限られた中で、どれだけ自分が自由にできるのかが大切だと思った。(子供だからね)
- ・自由にしてよかったことはありません。「自由にしていいいよ」と言われても、何もすることがないので、逆にちゃんとした生活の方が安心します。なので、自分自身に必要なことは、本当に自由に楽しいのかを考えることだと思います。
- ・家に一人でいる時は自由にすることができたけれど、少しずつやることがなくなってきて、ひまになった。もし、毎日自由にいいよと言われたら、毎日だと逆につかれてしまうと思った。時間は決まっていた方がいいと思った。

自由は、自分の好きなことができ、幸せな時であると思います。それには、自分で自律的に判断し、行動したことには自己責任が伴います。自由と自分勝手との違いや、自由だからこそのことやそのよさを考えて、自由な考えや行動のもつ意味や大切さを実感できるようにすることが大切なのでしょう。

何が正解で何がいけないのか、答えの出ない問題が世の中にはたくさんあります。そのようなときは一歩立ち止まって、心の中をのぞいてみてください。7回の道徳通信を通して、道徳教育についてお伝えしてきました。御家庭の中でも、道徳のことを話題にしていただけたらうれしいです。お読みいただき、ありがとうございました。